

ご支援のお願い

賛助会員へのご入会 ご寄付（クレジットカード）



当財団への賛助会費・ご寄付は税控除の対象になります

情報発信中！

Webサイト、Facebook、Twitter、Instagram にて
最新情報を発信しています



Web

2023年8月発行
公益財団法人 ^{ファイダー} 国際開発救援財団 (FIDR)
〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 3F
TEL : 03-5282-5211
FAX : 03-3294-2525
E-mail : fidr@fidr.or.jp
URL : <http://www.fidr.or.jp>



ご挨拶



理事長 飯島 延浩

法人賛助会員、個人賛助会員をはじめ、FIDRをご支援くださる皆様に、日頃よりのご支援、ご協力に対し厚く御礼申し上げます。さて、ここに2022年度の年次報告をお届けするにあたり一言ご挨拶を申し上げます。

2022年度は、新型コロナウイルスの感染の波が繰り返されましたが、日常を取り戻す動きも進みました。一方で世界各地では、ロシアによるウクライナ侵攻をはじめとする戦乱や頻発する自然災害により、多くの人々が困難な状況の中におかれています。特に今年2月に発生したトルコ・シリア大地震では、5万人を超える人々が犠牲となり、被災地では今なお避難生活を余儀なくされている人々がおられます。FIDRは、トルコ・シリア大地震に際して、ワールド・ビジョン・ジャパンを通じた緊急援助を実施することとし、法人・個人賛助会員の皆様を中心に緊急援助募金のお声がけをさせていただきました。お陰様で多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

FIDRの事業地でありますカンボジアでは、長年にわたる農村開発の経験を活かし、新たな地域での新規事業形成に着手しました。ベトナムでは、子どもの栄養改善のために国内初となる栄養指導車での活動を開始しました。ネパールでは、乾季の水不足という深刻な課題への対処を進めました。

法人・個人賛助会員をはじめとする支援者の皆様には、本財団の事業活動をお支えくださいましたことに心より御礼申し上げます。

FIDRは今後とも、設立の精神をしっかりと保ちつつ、ワールド・ビジョン・ジャパンとの緊密な連携のもと、着実な前進の中で常に新しい価値の創造を目指してまいります。引き続き、皆様の温かいご支援とご協力を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

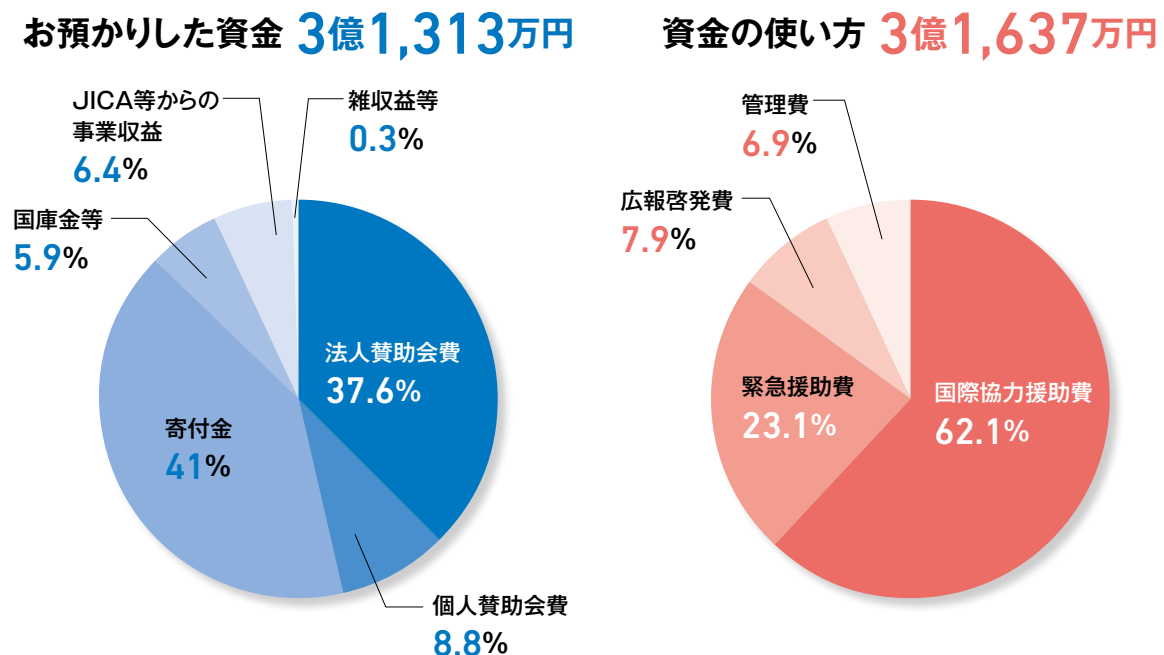
目次	ご挨拶	2
	2022年度のFIDR	3
	国際協力援助	
	カンボジア	4
	ベトナム	6
	ネパール	8
	共催事業	9
	緊急援助	9
	広報啓発	10
	会計報告	11
	みなさまとともに	12
	FIDRについて	14

2022年度のFIDR



FIDRのプロジェクトは「持続可能な開発目標=SDGs」のうち11のゴールに貢献しており、1、5、10、17のゴールはすべてのプロジェクトで共通して取り組んでいます。

335 法人と 2,611 名の個人の支援者の皆様



※詳しい会計報告はP11をご覧ください

カンボジア



カンボジア栄養教育普及

食と栄養で、健康を子どもたちに

期 間 2017年4月～2025年3月
(予定)

事業地 プノンベン都および
コンボンチャム州

対 象 教育省職員、対象校の教
員および生徒とその家族

背 景 国民の栄養状態が他国
目 的 に比べて顕著に劣るカン
ボジアでは、2025年に
全国の小学校・中学校・
高校で正式な教科となる
予定の保健科目の中で
栄養分野を重視してい
ますが、カリキュラム指
導や教科書の執筆、教
員の知識強化が課題と
なっています。食生活指
針*を取り入れた体系的
な栄養教育が教育省主
導のもと全国レベルで
実施されるよう、その基
盤を作ります。

*食生活指針望ましい食生活を送るためのメッセージ。日本では厚生労働省が文部科学省や農林水産省と連携して策定し、数年ごとに改訂。カンボジアではFIDRと保健省が策定。

▶保健授業の開始準備

前年度に執筆が完了した教科書の内容を、教員が理解して生徒に教えられよう、当年度は、教員の指導にあたる学校保健局のトレーナーへの研修や、保健教科書の栄養単元に関する教員向けの動画作成を行いました。

▶栄養教育のモデル校の環境整備

全国に栄養教育を普及するためのモデル校となるコンボンチャム州の4校に「保健教室」を開設しました。栄養を含む保健科目の指導に用いるテレビなどの備品を設置するとともに、生徒が体調不良や怪我の際に応急処置や静養できる環境を整え、教員向けの学校保健活動に関する研修を実施しました。また、衛生的な水を常時利用できるよう、ろ過装置を設置しました。このような設備を有する公立学校が少ないカンボジアにおいて、成長期の子ども達の心身の健康を教育の現場でも守ることの重要性を示し、形にすることができました。

▶「食生活指針」を普及

他の援助団体より依頼を受け、食生活指針および栄養テーマの研修を6回実施し、約20人の医師や看護師を含む団体職員に向けて指導しました。



保健教室



学生グループが自主的にゴミ拾いを実践

現地からの声

モデル校の一つ
フンセンミエンチャイ中・高等学校
学生グループのメンバー



僕は、学校のゴミ問題に取り組む学生グループのメンバーです。カンボジアではゴミの分別の必要性がよく理解されておらず、学校でもあちこちにゴミが落ちています。今までは特に気にしていませんでしたが、健康的な生活のために衛生環境も大切であることを学び、「ゴミ問題の解決に取り組みたい。他の子どもたちにも知ってほしい」と思うようになり、仲間と共にFIDRが募集した学生グループの一員になりました。活動では、学校に落ちているゴミを集めて分別したり、他の学生たちにゴミ問題に取り組むことの大切さを伝えたりしています。僕たちの活動が広がって学校がきれいになり、みんなの健康に繋がっていくことを願っています。

カンボジア小児外科支援

身近に安心して頼れる医療を

期 間 1996年10月～2028年3月
(予定)

事業地 クラチェ州および
プノンベン都

対 象 国立小児病院とクラチェ
州の病院・診療所の医
療従事者約1,000人、年
間約300人のクラチェ
州病院小児外科患者お
よびその保護者

背 景 5歳未満児の死亡率が他
目 的 のアジア諸国に比べて高
いカンボジアでは、小
児外科医療の立ち遅れ、
特に地方における医療
格差が大きな課題です。
首都プノンベン都の北
東部に位置するクラチェ
州および近隣地域の子
どもが迅速かつ適切な
診断、および外科治療
を受けられるように、州
病院を拠点とした小児外
科医療体制を整えます。

※当プロジェクトは、外務省の令和3年度日本NGO連携無償資金協力を受け実施(2022年2月～2023年1月)

▶クラチェ州病院新病棟の改善

外科病棟のさらなる環境改善のため、安全性向上のための防護ネット設置、換気のための窓の追加設置などを行いました。また、入院する子どもたちの不安が軽減するよう、壁面にペイントアートを施しました。さらに、病棟の衛生環境を保つため、病院をあげて定期的に大掃除を始めることになりました。



壁面が明るく彩られた病棟

▶病院医師・看護師の技術向上

日本人専門家による2年半ぶりの現地指導(4回派遣)、国立小児病院(プノンベン)の医師と看護師を招へいしての実技指導、外科医と看護師の国立小児病院への研修派遣、バタンバン州病院への外科部門の職員による視察などを行い、診療技能の向上を図りました。



病棟を掃除する看護師たち

▶州内の医療搬送体制強化

住民にとって最も身近な医療機関である保健センターから州病院に患者が適切に搬送されるよう、地域の医療従事者へ小児外科に関する基礎知識の研修(2か所)を行いました。また、一般住民に向けたラジオ、SNSでの啓発活動(3回)を実施しました。

▶事業評価の実施

2016年から実施してきた当プロジェクトの第5フェーズの終了に当たり、事業評価を行いました。

コンボンチュナン州農村開発

自らの力で暮らしと生活を変える

期 間 2011年4月～2023年3月

事業地 コンボンチュナン州
2郡5地区32村

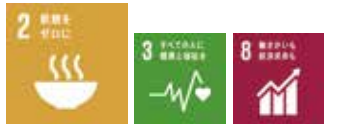
対 象 住民約25,000人
(6,200世帯)

背 景 貧困層の約9割が農村部
目 的 に暮らしているカンボ
ジアでは、生計基盤である
農業の生産性の低さと、
保健・栄養に関する基礎
的な知識の不足が大きな
課題であり、子どもの
慢性的な栄養不良による
発育阻害や学業への悪
影響に繋がっています。
住民が健康的な生活を送
るために十分な食糧を確
保し、栄養のある食事を
摂れるようになります。

▶農民組合の運営能力強化のための研修

農業生産力の向上、子どもの健康増進というプロジェクトの目的は2020年までにほぼ達成しました。その後2年間かけて、プロジェクト終了後もこの地域が自立発展できるようフォローアップを行いました。

設立支援した2つの農民組合に、前年度に引き続き研修を実施しました。両組合は現地で国連世界食糧計画(WFP)が支援する学校給食用の食材納入の年間契約を落札することができ、生産物の品質や確実な供給体制が外部から高く評価されました。



入札で食材について説明する農民組合員

▶新規プロジェクト地の調査

FIDRのこれまでの事業実績を評価する州行政局から要請を受け、コンボンチュナン州コンボンレーン郡で調査を行い、3地区を新規プロジェクトの対象に選定しました。明らかとなった課題(農業・生計、保健、教育)を改善するため、事業計画の一部を日本の企業と協力・連携して実施する方向性が定まりました。



新規プロジェクト地は雨季に広範囲が浸水する

ベトナム



ベトナム中部生活改善と子どもの栄養改善 最貧地域のお母さんと子どもに健康を

期 間	2019年4月～2026年10月 (予定)
事業地	コントゥム省全域 (9郡1市)
対 象	コントゥム省全域の5歳 未満児(約55,000人) とその保護者世帯
背 景 目 的	ベトナム中部高原地域 は、地理的な条件から孤 立しがちで、他の地域に 比べて発展が遅れています。 特にコントゥム省は、子どもの栄養不 良率が国内で最も高く、 出産時の母親の死亡率 も極めて高いとされてい ます。同省の一部の地 域で2012年から子ども の栄養状態の改善にと り組んできた実績をもと に、コントゥム省全域で 活動を展開します。

▶家庭における衛生が改善

子どもの栄養状態を改善するためには、家庭における衛生環境が大きく影響します。前年度までに現地で高い支持を集めていたマザーズ・スペース（家庭に設置するトイレ・シャワー・洗濯ができる複合衛生施設）の設置を新たな地域（トゥモロン郡、コンライ郡、シャータイ郡、コンプロン郡）に広げ、計300世帯に設けました。

※マザーズ・スペースの設置は、「TOTO水環境基金」助成金および第17回「愛の泉」チャリティー・コンサート募金にて実施

▶子どもの栄養改善のための啓発活動と調査の実施

子どもの食事を家庭で準備するのは主に祖母や母親ですが、子どもの成長段階に合わせた食事に関する知識は十分にありません。調理実習によって知識を広めようとしても、プロジェクト地は山岳地域に広がっているため、大勢が同じ場所に集まることが難しい状況です。そこで、戦後復興期の日本の農村で活用された、移動式で調理実習が行える栄養指導車（キッチンカー）を参考に、ベトナムで初めて栄養指導の専用車両を製造しました。キッチンカーには「お母さんの台所」という文字と栄養ピラミッドを描き、親しみやすいイラストも添え、目をひくデザインとしました。集落を巡回して、家庭でも実践可能な栄養満点の炊き込みご飯の作り方を伝える調理実習を行う活動を開始したところ、住民の高い関心を集め、従来に増して意欲的に実習に参加する姿がみられるようになりました。

また、プロジェクトの対象地域の住民の健康に関する正確な状況を把握するためのベースライン調査を国の栄養研究機関と共同で実施しました。



マザーズ・スペースの完成を喜ぶ家族



マザーズ・スペースの内部



栄養指導車（キッチンカー）による調理実習の様子
※当ページ冒頭の写真は、調理実習で作られた炊き込みご飯を試食する親子



ベトナム中部発展型農村総合開発 地域の魅力と資源で産業を育てる

期 間	2019年4月～2026年10月（予定）
事業地	クアンナム省9郡
対 象	クアンナム省9郡の住民304,400人 (80,850世帯)
背 景 目 的	ベトナムの農村人口における貧困層の約9割が住む山岳地域には、国の発展や変化から取り残された状況にある少数民族が暮らしています。2001年からクアンナム省ナムザン郡で少数民族のカトゥー族と進めてきた地域開発の取り組みを、クアンナム省全域にひろげ、様々な少数民族が主体的かつ持続的に産業育成と地域振興を図ることができるようにします。

※当プロジェクトは2022年2月よりJICA 草の根技術協力事業（事業名「ベトナム社会主義共和国クアンナム省山岳少数民族地域における地域資源を活用した持続的な農村産業促進のための基盤構築事業」）として実施

▶プロジェクトの実施体制強化

前年度は新型コロナウイルスのために現地での活動に大きく制約を受けましたが、当年度はフィールドオフィスを3か所に設置し、行政、住民との協働をさらに強める体制を整えました。

▶地場産業の形成に向けた基盤構築

対象の9郡で地場産業の開発の可能性を探る活動を住民主導で進め、その一環でコミュニティー・ベースド・ツーリズム*の構築も進みました。
*コミュニティー・ベースド・ツーリズム：住民による住民のための地域に根ざした観光開発のこと。

▶国際会議等での発表

FIDRが少数民族とともに実施してきた取り組みが「モデル事業」として行政や援助機関から高く評価され、国際会議、ワークショップ、研修など多くの場で発表や講義を行いました。



国際メコンツーリズム会議でも事例発表を実施

ソンラ省持続的コーヒー生産のためのコミュニティ開発 一杯のコーヒーから農家の暮らしを変える

期 間	2021年4月～2023年9月
事業地	ソンラ省ソンラ市2社*、トゥアンチャウ郡2社、マイソン郡2社 *社：ベトナム最小の行政単位。日本の町、村に相当する。
対 象	コーヒー生産農家約4,300世帯
背 景 目 的	ベトナムのコーヒー生産量は世界2位を誇ります。ソンラ省はその主要産地の1つであり、少数民族が多く暮らす、ベトナムで最も貧しい5省のうちの1つです。イオン(株)から委託を受けた調査の結果、収入、農業技術、住民の生活、地域支援に関する課題が明らかになりました。持続的なコーヒー生産を通して、安定した生活とコミュニティ支援体制を構築します。

▶農家への研修

生産農家の生活改善を推進するため、生活改善のヒントをまとめた教材を作成するとともに、農家のグループを形成してそのリーダーに対する研修を行いました。



堆肥づくり研修

▶日本でのコーヒー販売開始と認知度向上

7月より日本国内のイオンの店舗で、当プロジェクトを通じた生産者の確実な生活向上を目的とした「ベトナム・ソンラ」コーヒーの販売が開始されました。2023年2月にはイオン(株)をはじめとする関係団体が集う「ベトナムコーヒーサミット」がオンラインで開催され、成果を報告しました。

※当プロジェクトはイオン(株)の委託事業として実施

ダナン市における女性・子ども支援 実践的なスキルで安定した収入を

共同実施団体：ダナン市慈善・チャイルドライツ保護協会

期 間	2022年4月～2024年3月（予定）
事業地	ダナン市
対 象	ダナン市内の貧困世帯の女性および若年者約100人、現地協働団体の職員
背 景 目 的	国際観光都市としての認知度が向上しているベトナム中部最大の都市であるダナン市では、急速な発展が進む一方で、住民の間に社会・経済的格差が生じています。現地共同実施団体とともに、生活困難世帯を対象に安定した生活のための知識およびスキル向上の機会を創出し、コミュニティ支援体制を構築します。

▶プロジェクトの計画策定

現地共同実施団体とニーズ分析、研修やカリキュラムの検討を重ね、10月にプロジェクト開始ワークショップを開催しました。

▶研修の実施

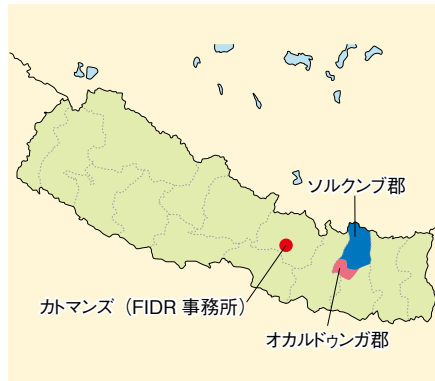
11月以降、縫製、包装、農産物加工、工芸品制作の訓練を順次実施し、計100世帯ほどが受講しました。収入が極めて不安定であった人々が着実な収入を得られるようになった結果、現地メディアから取材を受けたり、他の地域からも反響が寄せられたりと、注目を集めています。



機械を使って真空パックをする研修生たち



ネパール



ネパール地域総合開発

地域を元気に、子どもを健康に

期 間	2020年4月～2026年3月 (予定)
事業地	ソルクンブ郡ネチャサ リヤン村、オカルドウ ンガ郡チサンクガディ村
対 象	ソルクンブ郡ネチャサ リヤン村及びオカルドウ ンガ郡チサンクガディ 村の住民 約31,000人 (約4,200世帯)

背 景 アジアで発展が遅れている国の1つであるネパール。インフラが十分に整備されていない山岳地域では、多くの人々が制約のある生活を送らざるを得ず、限られた土地での農業が主たる産業ですが、観光業や製造業、小売業で経済が伸びつつある都市部との地域格差は広がるばかりです。そのため、出稼ぎにでる若年層が極めて多く、地域の生産力とコミュニティの活力は低下の一途を避けられずにいます。住民と行政の協働により農業生産性の向上および収入の安定を図り、子どもの健康増進を目指します。

※当プロジェクトは、外務省の令和4年度日本NGO連携無償資金協力を受け実施(2023年3月より)

▶プロジェクトの本格始動

4月にプロジェクト開始ワークショップを開催しました。その後もプロジェクト地の把握、地域行政・住民との信頼関係と連携体制の構築や現地職員の能力強化を進めました。

▶衛生行動の改善による健康増進

8か所の保健ポストに冷蔵庫、身長計、体重計、血圧計、保育器、血糖値測定器、点滴台、病院用ベッド、分娩台等を配備しました。これを機に現地の保健ポストでは、高齢者を対象とした2か月に1回の訪問診療プログラムが開始されました。

▶農業の生産性の向上

農業用ため池を54か所に作り、その水を利用したトンネル栽培の設備を165か所に設けました。これにより水不足で乾季に栽培できなかったトマトなどの栽培も試みられるようになり、農業生産量の増加につながりました。

▶子どもの学習環境の改善

対象地域内の9校で校舎の屋根・壁・床の修繕、フェンスの設置、教室用備品(椅子・机・棚・PC用机など)や教室用カーペットなどを配備しました。

現地からの声



オカルドウ
ンガ郡
小学校の校長
ラル・バハドール・ライ氏

以前は、使える教室の数が少なかったため、学級に関わらず1つの教室にできるだけたくさんの子供たちを集め、狭い中で授業をしなければなりません。FIDRの支援によって、古くなって使用していなかった校舎が修繕され、再び教室として使えるようになったおかげで、利用できる教室の数が増え、学級ごとに教室を分けて授業を行うことができるようになりました。子どもたちの学習環境が改善されただけでなく、私たち教師にとっても、今あるものをどう使うか、学ばせてもらう良い機会となりました。本当にありがとうございます。



保健ポストへの医療器具提供



トンネル栽培の設備を作る農家

緊急援助

ダナン市洪水被災者に対する緊急援助

支援が届いていないところへ、必要なものを迅速に

期 間	2022年10月～11月
事業地	ベトナム ダナン市
対 象	洪水被害を受けたダナン市2郡内の4小学校・2保育園の被災児童およびその世帯計約250世帯 同対象校の児童・対象園の園児及び世帯(5,400世帯)
背 景	2022年10月14日から15日にかけてベトナム中部を直撃した台風19号は高潮と重なり、低地部で大規模な洪水をもたらしました。FIDR事務所があるダナン市でも中心部では4,000戸を超える世帯が浸水の被害を受け、20万戸以上が停電となりました。また、北部のリエンチエウ区および西部のホアバン区には特に大きな被害をもたらしました。

▶支援が届いていないところへ迅速に支援

ダナン市当局から洪水被災者への支援要請を受け、FIDRは迅速に調査を行い、支援が届いていない小学校と保育園、およびそれらに通う子どもがいる貧困世帯への支援を実施しました。



寝具セットを受け取った園児たち

支援内容

被災児童世帯への支援(250世帯): 食料(米、調味料)、学用品
小学校への支援(4校): 図書、文具、衛生キット、教材等
保育園への支援(2園): 寝具セット(各園100セット)

トルコ・シリア大地震緊急援助

いま必要なものを、ほんとうに必要としている人々へ

期 間	2023年2月～2023年9月
事業地	トルコ南東部、シリア北西部(アレック ボ県、イドリブ県)
対 象	地震による被害を受けた人々約100万人
背 景	2023年2月6日、トルコ南部およびシリア北西部においてマグニチュード7.8の強い地震が発生しました。トルコでは5万人以上が命を落とし190万人が避難所での生活を強いられ、シリア北西部では死者4,500人以上、地震の影響を受けた人々は300万人といわれています。特にシリア北西部は、今回の震災の前から12年にわたる紛争の影響で非常に脆弱な状況で、410万人(うち国内避難民290万人)が人道支援を必要としていました。

▶2か国それぞれのニーズに迅速に対応

ワールド・ビジョン・ジャパンを通じて、緊急期(発災から30日)から復興期(9月末まで)にわたる支援として、その時点で最も必要とされるものを支援しました。



水タンクを配給する様子(シリア)

トルコ

30日分の安全な水9,600人分
衛生用品(爪切り、タオル、くし、女性用衛生用品)2,400人分
簡易トイレ2,000人分
緊急用貯水容器600個・共同水タンク生活必需品およびその引換券22世帯分
水2,500人分

シリア北西部

防寒用暖房器具と燃料2,545世帯および学校の児童・生徒4,916人分
非常食11,463人分
現金給付2,004世帯分
衛生キット2,262人分
毛布や生活必需品1,447世帯分
など

共催事業

ベトナム国際医療技術協力

日本の医療技術をベトナムへ

共催団体: 公益財団法人国際医療技術財団

期 間	2022年8月～12月
事業地	ベトナム、日本
対 象	ベトナム政府保健省、歯科技工技術者、伝統医療従事者など
目 的	日本の伝統医療及び歯科技工技術がベトナムの医療の向上並びに人材開発に寄与することを目指します。

今後の事業計画を策定するため、現地調査を行いました。柔道整復術に関しては、8月に行った現地調査を基に、技術移転のための専門家や本邦研修先の選定を行いました。歯科技工技術に関しては、10月にベトナム国家大学歯学部学生への講義や病院での指導者養成トレーニングを実施しました。12月には現地調査を行い、日本式歯科技工所及び研修センターの設立、大学歯学部における歯科技工学士教育課程の設置、歯科技工に係る資格制度化について日越の関係機関と協議を行いました。



ベトナム国家大学歯学部での講義

開発途上国の課題やFIDRの活動について「みる、きく、交流する」そして「学ぶ」機会を提供しました。また、FIDRが大事にしていることや活動の成果を「読む」広報誌を発行しました。



オンラインや対面での広報活動

オンライン報告会を開催し、カンボジアに駐在する専門家と日本の学校給食専門家がカンボジアの栄養教育の状況を伝えました。ご支援いただいている企業を対象にオンライン、対面の両方を取り入れた報告会を実施しました。バザーへの出展も行いました。

〈企業での報告会〉ニッシントーア・岩尾株式会社（5月）、ヤマザキ製パン従業員組合（8月、9月、12月）、ミヨシ油脂株式会社（12月）、月島食品工業株式会社（2月）



賛助会員企業での報告会

ウェブサイトでの情報発信

ウェブサイトやFacebookなどのSNSを通じた最新情報の発信に努めるとともに、支援者の皆様にとって、よりアクセスしやすく、より見やすくするために、公式ウェブサイトのリニューアルを行いました。緊急援助事業（ダナン市洪水被災者に対する緊急援助、トルコ・シリア大地震緊急援助）の発生時には、ウェブサイトを通じ募金への協力を呼びかけました。



2023年5月に公開した新しいウェブサイト



開発教育の実施・外部講師として登壇

受講者のニーズに合わせて、対面やオンラインによる開発教育を行いました。また大学生を対象に、オンライン講義を行いました。

〈開発教育実施校〉

和洋九段女子中学校（5月）高知商業高校（11月）法政大学法学部（1月）

〈オンライン講義〉長野県立大学（1月）



開発教育の様子



広報誌などでの活動内容のPR

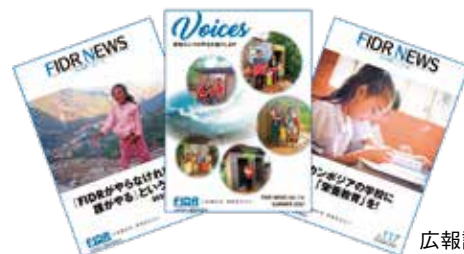
FIDRの活動内容やその成果について、賛助会員をはじめとする支援者の方々へ発信しました。

●FIDR NEWS 115～117号の発行（年3回：4月、11月各4,300部、8月6,600部）

●年次報告2021の発行（計1回：8月4,300部）

●メールニュースの配信（計14回）

●Monthly FIDRの配信（計12回）



広報誌でのPR

「カンボジアの学校に『栄養教育』を！」キャンペーンを開始しました

特設キャンペーンサイト（<https://www.fidr.or.jp/ei-yo>）を立ち上げ、カンボジアの栄養教育の状況を動画を交えて紹介するとともに、定期的に現地からの情報を届けています。あわせて、InstagramなどのSNSも活用し、本プロジェクトのサポーターを広げるための活動を展開しています。



特設
キャンペーンサイト



特設
Instagram

貸借対照表（要旨）

令和5年3月31日現在 (単位：千円)

I. 資産の部		
1 流動資産		52,741
	現金預金	38,975
	未収金	11,359
	前払金	2,407
2 固定資産		424,189
	基本財産	303,000
	特定資産	109,627
	其他固定資産	11,562
資産合計		476,930

II. 負債の部		
1 流動負債		11,283
	未払金	7,366
	前受金	9
	預り金	997
	賞与引当金	2,911
2 固定負債		38,105
	退職給付引当金	38,105
負債合計		49,388

III. 正味財産の部		
1 指定正味財産		374,522
2 一般正味財産		53,020
正味財産合計		427,542
負債及び正味財産合計		476,930

正味財産増減計算書（要旨）

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで (単位：千円)

I. 一般正味財産の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 受取会費		145,257
② JICA受託等事業収益		19,990
③ 受取補助金等		18,388
④ 受取寄付金		128,498
⑤ 雑収益他		995
経常収益計		313,128
(2) 経常費用		
① 事業費		294,649
国際協力援助費	196,471	
緊急援助費	73,261	
広報啓発費	24,917	
② 管理費		21,718
経常費用計		316,367
当期経常増減額		△ 3,239
2. 経常外増減の部		
当期経常外増減額		5
当期一般正味財産増減額		△ 3,234
一般正味財産期首残高		56,254
一般正味財産期末残高		53,020
II. 指定正味財産増減の部		
① 受取補助金等		44,311
② 受取寄付金		106,567
③ 一般正味財産への振替額		△ 125,120
④ 補助金等返還金		△ 613
当期指定正味財産増減額		25,145
指定正味財産期首残高		349,377
指定正味財産期末残高		374,522
III. 正味財産期末残高		427,542



みなさまとともに

FIDRは、300以上の法人賛助会員や2,600人以上の個人賛助会員のみなさまをはじめ、ご寄付やボランティアでご協力くださるみなさまとともに、開発途上国の子どもたちや自然災害に見舞われた方々のために活動しています。2022年度も、みなさまのご支援のおかげで、現地にたくさんの支援を届けることができました。心より感謝申し上げます。みなさまとのパートナーシップについて、一部をご紹介します。(敬称略)

トルコ・シリア大地震緊急援助募金

2023年2月6日に発生したトルコ・シリア大地震による甚大な被害をうけ、ただちに緊急援助の実施を決め、募金の協力を呼びかけたところ、196法人・182名のみなさまよりご寄付をいただきました。被災地での緊急援助活動は、国際NGOワールド・ビジョン・ジャパンを通じて2月以降実施しています。

「カンボジアの学校に『栄養教育』を！」キャンペーン

カンボジア栄養教育普及プロジェクトについてより多くの人に知っていただき、支援の輪を広げていくため、キャンペーンを開始しました。4法人・43名のみなさまに「栄養教育サポーター」としてご支援いただきました。ご支援の一部をご紹介します。



ダイセーエブリー二十四株式会社

「カンボジア栄養教育普及プロジェクト」へのご支援の他、災害時の緊急援助募金でもFIDRの活動を支えてくださっています。事業を通じてSDGsの達成に貢献するための取り組みをされる中、「国際社会への貢献として何をすべきかを導いてくれ、現地の子どもたちと支援者をつないでくれる存在」として、FIDRをお選びくださりご寄付くださいました。



京都モーニングロータリークラブ

カンボジアの子どもたちの栄養改善のための活動を、長年にわたりご支援くださっています。当年度にいただいたご寄付は、4つの学校における手洗い場や給水タンクなど衛生設備の増設、保健教室（保健室と教室の機能を兼ね備えた施設）の設置などに役立てさせていただきました。



書き損じはがき収集活動にご協力いただきました

三井不動産ファシリティーズ株式会社／山崎製パン株式会社／その他多くの個人の方々（敬称略・50音順）

ボランティアの皆様

郵送物の封入作業や発送、広報記事の翻訳、ウェブやSNSによる発信情報のコンテンツ作りなどにご協力いただきました。当年度は、カンボジア栄養教育普及プロジェクトの特設Instagramの運営やウェブリニューアル作業など、オンライン媒体の充実や発信強化のために力を注いでいただきました。



山崎製パン株式会社、株式会社不二家、株式会社ヴィド・フランス

山崎製パン(株)及び同社グループは、デイリーヤマザキ、Yショップ、不二家洋菓子店、ヴィ・ド・フランス、サーティワンアイスクリーム等、全国約3,500店舗に募金箱を設置し、当年度も継続してヤマザキ「ラブ・ローフ」募金活動を推進していただきました。



株式会社スーパーヤマザキ

毎年、お中元やお歳暮ギフト商品の売り上げの一部をご寄付くださっています。当年度はカンボジアにおける小児外科支援と栄養教育普及のためにご寄付いただきました。



生産者のマルサフルーツ 古屋さん



ミヨシ石鹸株式会社

「ひとにやさしく、地球にやさしい製品」をモットーに、原料の抽出から最終生産まで一貫して手がけるこだわりで、質の高い無添加せっけんづくりを実現されています。また、国際的な環境保全に関する認証を取得され、次世代に繋ぐ環境づくりにも取り組まれ、FIDRの活動にもご賛同いただき、ご寄付くださいました。



ヤマザキ製パン従業員組合

年間を通し、全国各支部でチャリティー活動を行い、寄せられた募金の一部を「地域社会のために」とFIDRにご寄付くださっています。当年度はこれをダナン市洪水被災者に対する緊急援助および開発途上国における支援活動のために役立てさせていただきました。本社支部で開催された歳末チャリティーバザーにはFIDRも出店し、ベトナム少数民族の手工芸品や東日本大震災で大きな被害を受けた東北地方の物産品の販売を通じて、従業員の皆さんにご支援ご協力をいただきました。



(左) 活動の一つとしてある支部ではチャリティーカレーを調理、販売／(右) 年末のチャリティー募金贈呈式



ソントンホールディングス株式会社

子どもの栄養改善のための取り組みを継続してご支援いただいています。前年度のご寄付で製作した栄養指導車（キッチンカー）で、ベトナムの山間地の村々を巡回しながら、お母さんたちに調理実習を行うための活動全般に当年度のご寄付を役立てさせていただきました。



心をあわせ、未来をひらく

FIDRは、開発途上国の子どもたちの支援と緊急援助を行う、国際協力NGOです。

FIDRとは

公益財団法人国際開発救援財団(英語名Foundation for International Development/Relief)「FIDR(ファイダー)」は、1990年に日本で誕生した国際協力NGOです。

FIDRは2020年6月に国連経済社会理事会の特殊諮問資格を取得し、国連NGOの一員となりました。

FIDRの2つのミッション

FIDRは開発途上国の子どもたちが健やかに育つことができる社会をつくれます。

FIDRは日本国内の多くの個人、企業、団体の皆様と一緒に、国際協力を推進します。

ミッションを実行するための3つの事業

国際協力援助事業

開発途上国の人々が貧困から脱して、地域が自立的に発展していくことができるように、さまざまな分野で地域に根差した活動を行っています。

緊急援助事業

日本を含むアジアの国々で自然災害に見舞われた人々への支援を行っています。

広報啓発事業

多くの方々との協力の輪を広げるための情報発信やコミュニケーションを行っています。

●団体概要

団体名：公益財団法人国際開発救援財団

英語表記：Foundation for International Development/Relief (FIDR)

代表者：飯島 延浩

設立日：1990年4月26日

行政庁：内閣府

基本財産：3億300万円

事業目的：開発途上国において子どもの福祉を中心とした住民の生活環境の向上及び地域開発の推進に資するための援助事業を実施し、開発途上国の自立的発展及び福祉の増進に寄与する
海外並びに日本国内における自然災害の被災者への緊急援助を実施し、社会復帰を促進する

賛助会員：法人賛助会員 315 法人

個人賛助会員 2,459 名

事務所設置国：日本、カンボジア、ベトナム、ネパール

※ 2023年7月末現在

●役員・評議員一覧

理事長	飯島 延浩	山崎製パン株式会社代表取締役社長
副理事長	三木 晴雄	玉の肌石鹸株式会社相談役
専務理事	江川 信彦	株式会社サンデリカ監査役
常務理事	岡田 逸朗	山崎製パン株式会社顧問
理事	飯島 茂彰	ヤマザキビスケット株式会社代表取締役社長
理事	今西 浩明	公益財団法人国際開発救援財団事務局長
理事	岡松 孝男	昭和大学名誉教授
理事	片山 信彦	特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン常務理事
理事	小西 惠一郎	公益財団法人国際医療技術財団代表理事・理事長
理事	戸田 信之	月島食品工業株式会社顧問
理事	長谷川 冴子	一般社団法人全日本合唱連盟理事長
理事	日暮 道生	栄香料株式会社取締役会長
理事	深沢 亮子	ピアニスト
理事	三木 逸郎	ミヨシ油脂株式会社代表取締役社長兼 CEO 兼 CBO
理事	湊 晶子	広島女学院顧問
監事	秋山 豊正	税理士
監事	飯島 佐知彦	山崎製パン株式会社取締役副社長

評議員	安西 愈	弁護士
評議員	飯島 幹雄	株式会社東ハト代表取締役社長
評議員	神長 善次	株式会社不二家取締役
評議員	齋藤 昌男	弁護士
評議員	妹尾 正毅	一般社団法人日本倶楽部理事
評議員	中川 真佐志	オリエンタル酵母工業株式会社代表取締役社長
評議員	峯野 龍弘	ウェスレアン・ホーリネス教団淀橋教会主管牧師
評議員	村上 宣道	一般財団法人太平洋放送協会名誉会長
評議員	吉田 輝久	飯島興産株式会社代表取締役副社長

※ 2023年7月末現在